

周産期センター 村上 信子 副看護師長(助産師)

topics
news

女性のすべてのライフサイクルに関わる助産師の役割

院内助産・助産外来など

専門性を発揮することを期待されるアドバンス助産師

函館中央病院周産期センター副看護師長 村上 信子 さん



周産期センター副看護師長の村上信子さん。

周産期(出産の前後の時期)に関わる高度な医療を行うことができる道南唯一の総合周産期母子医療センターとして、函館中央病院は地域の周産期医療の中核を担っているが、周産期センター副看護師長の村上信子さんもその一人。道立旭川高等看護学院助産婦科(助産学科)を卒業後、旭川医科大学病院を経て、函館中央病院での勤務が10年目を迎えた。

同病院の年間分娩件数は700件前後。道南地区のほぼ全ての周産期ハイリスク症例を取り扱っている。村上さんは「ハイリスク症例とは妊娠高血圧症候群や切迫早産・前期破水、胎児発育遅滞などですが、当センターでは小児科の新生児専門医と密に連携を取り、母児共に最良の選択となる医療を常に目指しています」と話す。助産師の仕事は分娩介助だけではない。「妊婦の健康管理や妊娠中の生活指導、出産後も褥婦の体調管理、母乳指導、乳児指導など妊娠から出産・育児に至るまでの母子の健康を守るための管理と指導、さらには未成年への性教育指導や家族計画指導まで、助産師は女性のすべてのライフサイクルに関わっています」。

同病院は妊娠期から産後の母乳育児外来(ベビリーフ)も開設。「妊娠期や産後の母乳のトラブルは多くのお母さんが経験する悩みです。子育てで苦労しているお母さんは多いので、不安なく過ごすお手伝いをしています」。全国の児童相談所が対応する児童虐待件数は年々増加を続けている。同病院では虐待の早期発見と保護者への子育て支援を通じて予防活動を積極的に推進するために「院内児童虐待防止委員会」を設置。助産師も大きな役割を担っている。「虐待には若い女性の妊娠や家族背景などさまざまな要因がありますが、虐待の前段階で拾い上げ、子育て支援により虐待を予防できるように努めています」。

助産師の助産実践の質の向上に貢献することを目的として、2015年日本助産評価機構など助産関連5団体が創設した「助産師実践能力習熟度段階レベルⅢ認証制度」をもとにした客観的評価の取り組みがスタート。認証を受けた助産師は「アドバンス助産師」と呼称され、その数は1万人を超えた。認証を受けるには、分娩介助100例以上、妊娠健診200例以上、学会参加や研修受講など16項目の要件をクリアする必要があるが、同病院でも12人の助産師が認証を受けている。

「アドバンス助産師は自立して助産ケアを実践できる能力を認証されていることから、院内助産・助産外来などで専門性を発揮することを期待されています。お母さんの心配事を少しでも減らすような支援を目指しています」。